

〈設備名称〉 マイクロフォーカスX線CT透視装置

〈管理担当者〉 秋田大学大学院 工学資源学研究科
電気電子工学専攻 教授 倉林 徹

〈設備構成〉

名称	型番
1. マイクロフォーカスX線発生装置 (プリンター付)	InspeXio SMX-100CT



〈測定原理・その他の詳細〉

分解能 $5\mu\text{m}$ のX線管球と超高感度X線検出器により高拡大で計測できる。試料を回転させながらX線透過像を連続的に撮影し再合成することによって試料を3次元計測し、断面の観察や空隙の測定ができる。外観カメラによるCTスキャン位置決め機能やX線条件自動設定機能が実装されており、高精細な3次元CT画像が得られる。3次元画像処理ソフトinspeXio, VGStudioMAXがインストール済み。

〈使用料(税抜)〉 2,110円/時

〈設置場所〉

秋田大学
ベンチャーインキュベーションセンター 104研究室

〈使用例〉 内部構造解析, 微小欠陥観察, 断面観察, 2次元計測, 3次元計測. 橋梁等公共設備の過剰の保全工事や再塗装抑制による資源の節約・環境負荷の低減を図るため, 電磁波と組み合わせた劣化診断技術により, 塗装の劣化および金属錆の発生を画像化する技術を確立するため使用.